

「敬老の日」と「老人の日」「老人週間」

「敬老の日」 9月第三月曜日

「老人の日」 9月15日

「老人週間」 9月15日～9月21日

高齢者のみなさんは、「敬老の日」、「老人の日」あるいは「老人週間」の間、どう過ごされましたか。100歳になって、結婚50年で、自治体からお祝いを受けた方もおいででしょうし、ウォーキングや里山遠足、ワイワイ喫茶でお仲間と過ごされた方もおいででしょうし、あいにくの大雨・台風でしたから家居ですましたり、後片付けに追われた方もおいでだったと思います。「花のあるまち、ゴミのないまち」運動やさまざまなボランティア活動に参加された方もあったことと推察されます。お孫さんから似顔絵やお手紙や花を贈られたり、家族行事を楽しまれたおじいちゃん・おばあちゃんもおいでだったことでしょう。一人暮らしでいつもとかわらず過ごした人や有訴・病と闘っているみなさんも少なくないでしょう。

「国民こぞって祝い、感謝し、又は記念する日」が国民の祝日なのですが、マスコミ三紙で「敬老の日」であることがわかるのは、一面に「高齢者4人に1人」の見出しで総務省の高齢者人口推計値を記事にした『毎日新聞』だけ。『読売新聞』は社説の半分で、「敬老の日 高齢世代の支え合いが大切だ」で触れ、「シルバーシート40年」の関連記事を載せていますが、『朝日新聞』は三面に2段通し14行の「65歳以上「4人に1人」 総務省推計 きょう「敬老の日」」だけ。当日、新聞を開いた高齢者は、いかに国民こぞって祝われていない祝日であるかを知ることになります。地方紙のしごといってすまず問題ではないでしょう。来年はこんな扱いを許さない存在感を示さねばならないでしょう。（堀内正範）

「敬老の日」「老人の日」「老人週間」の経緯

「敬老の日」は「国民こぞって祝い、感謝し、又は記念する日」を定めた「国民の祝日に関する法律」（昭和23年7月20日、最終改正は平成17年5月20日）の2条「敬老の日 九月の第三月曜日 多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。」による。

昭和22年（1947年）に兵庫県多可郡野間谷村（現：多可町）で行われた敬老行事「としよりの日」がきっかけとなり、昭和25年（1950年）、9月15日を「としよりの日」としようとする敬老・福祉の兵庫県県民運動が開始されました。

昭和26年（1951年）、中央社会福祉協議会（現：全社協）が全国運動を提唱。9月15日から21日までの1週間を運動週間として、「老人を敬い慰め、励ますとともに、老人福祉に対する国民的理解を促進し、老人自身もまたその立場を自覚し、新しい

社会建設に参加する」ことをうたって様々な活動が推進されました。

「としよりの日」は昭和39年（1964年）に「老人の日」と改称され、昭和41年（1966年）に国民の祝日「敬老の日」へと発展しました。そして、平成13年（2001年）の老人福祉法の改正により、9月15日が「老人の日」、同月21日までの1週間が「老人週間」と定められました。その後、「国民の祝日に関する法律」の改正により、平成15年（2003年）からは「敬老の日」が9月の第3月曜日となりました。

.....

『読売新聞』社説 2013年9月16日

敬老の日 高齢世代の支え合いが大切だ

きょうは敬老の日。

100歳以上で迎えたお年寄りは、5万4000人を超える。過去20年間で11倍に増えた。

日本が世界屈指の長寿国になったのは喜ばしい。高齢期をいかに実りあるものにするかを社会全体で考えねばならない。

厚生労働省の研究会は、今年3月にまとめた報告書で、高齢者が住み慣れた地域で暮らすには、「共助、公助」と共に、「互助、自助」が必要だと指摘した。

「共助」は介護保険などの社会保険制度に基づく相互扶助であり、「公助」は税財源による生活保護などを言う。これに対し、「互助」は近隣同士やボランティアによる助け合いを指す。公的な制度によらない支援の仕組みだ。

高齢者同士の「互助」の取り組みが、各地で広がっていることに注目したい。

例えば長崎県佐々町では、要介護状態になるのを防ぐ「介護予防ボランティア」が活躍する。

ボランティアとなる住民は60歳代が中心で、まず町が開く養成講座を受講する。寝たきりや認知症の予防を目的に、集会所で開かれる教室で、高齢者に運動やレクリエーションの指導を行う。高齢者の自宅を訪問し、洗濯、掃除の手伝いもする。この結果、佐々町で要介護認定を受ける高齢者の割合が減り、介護費の削減にもつながった。

住民のボランティアが優れているのは、地縁を通じて地域の人が気軽に参加できる点である。

ボランティア活動をしている高齢者は、認知症や要介護状態になりにくいとの報告もある。自身の生きがいにもなる。こうした活動を広げてみてはどうだろうか。

地域社会のつながりが薄れたと言われて久しい。「互助」を促進するには、自治体の役割が鍵になる。ボランティアが活動する場の確保など、住民の助け合いを後押しする工夫が求められよう。

65歳以上の高齢者は、ほぼ4人に1人に上る。急速な少子高齢化で、社会保障制度を支える現役世代の負担は一層重くなる。高齢者の生活を公的サービスだけで支えること

が困難なのは明らかだ。

自立して生活する「自助」を実現することが望ましい。意欲と能力があれば、それに応じて社会の「支え手」になるという意識を持つことが大切である。

高齢になっても一定の仕事が続けられるようにすることは、極めて重要な課題だ。長年培った能力を生かし、活力ある長寿社会を実現したい。

.....

『琉球新報』社説 2013年9月16日

敬老の日 「豊かな老い」を見いだそう

レクリエーションや清掃活動など、地域で活躍するお年寄りと触れ合うと、人生経験に裏打ちされた語り口や立ち居振る舞いから学ぶことは多い。戦中戦後の厳しい時代を生き抜いてきた方々は、地域社会を支える大きな財産だ。

きょうは「敬老の日」。「豊かな老い」の意味をかみしめ、高齢者の知恵を生かす社会づくりを考えたい。

総務省によると、2013年の65歳以上の高齢者は3186万人。総人口に占める割合が25.0%で、過去最高を更新した。4人に1人が高齢者である。2035年には3人に1人となる。

長寿の指標である100歳以上の県内の高齢者は923人で、前年比で42人増えた。人口10万人当たりの数は、島根が82.46人と最多で、沖縄は65.51人で8位となり前年より三つ順位を下げた。

健康長寿の陰りと受け止める向きもあるが、出生率が日本一という沖縄の子どもの多さが高齢者の割合を押し下げている面もある。冷静な分析が必要だろう。

数値に一喜一憂せず、全ての世代で支え合い、“沖縄型”の「豊かな老い」を見いだす努力を続けたいものだ。高齢者と地域社会がつながる価値を見詰め直したい。

高齢者に生きがいを感じてもらう特色ある活動が県内各地にある。

名護市幸喜区で、老人会の女性有志が「見守り教室」を開き、夏休み期間中の平日、公民館で勉強する約15人の児童たちに寄り添った。最高齢は91歳だ。低学年の子に絵本を読み聞かせるなど、「地域の宝」である子どもたちと会話が弾んだ。

お年寄りの居場所づくりと、子どもたちの思いやりを育む一石二鳥の温かい取り組みである。

県内で、しまくとうば（琉球諸語）の継承に向けた取り組みが活発化している。継承の先頭に立ち、地域の話し方教室などで奮闘するお年寄りの使命感に頭が下がる。

政府の高齢社会対策大綱は、65歳以上の従来の高齢者をめぐり、「支えられる人」という意識を改め、「人生90年時代」をにらんだ仕組みへの転換を促している。高齢化社会の未来図に「住み慣れた地域で暮らす」を描く。その方向性は正しい。

身近な地域に横たわる課題から克服し、地域の力で高齢者の孤立を防ぎ、意欲のある高

齢者の出番を増やしていく。具体的かつ効果的な方策がもっとあるはずだ。

.....

『東京新聞』 【埼玉】

あす「敬老の日」長寿 祝う

16日は「敬老の日」。県内最高齢の111歳で女性の新藤ハナさん＝所沢市＝と、国内最高齢男性でもある110歳の百井盛（ももいさかり）さん＝さいたま市中央区＝はそれぞれ元気な様子で取材に応じ、「自然と長生きした」（新藤さん）、「あと2年長生きしたい」（百井さん）と語った。

「あと2年長生きを」 国内最高齢男性 百井 盛さん（110歳）

百井さんは福島県南相馬市出身で、一九〇三（明治三十六）年生まれ。昭和初期から農芸化学の教員として教壇に立った。戦後に旧与野町（現さいたま市）に移り、五三年に町立与野高校（現県立与野高校）の校長に着任。同校の小松崎真（まこと）校長は「百井さんが今の活気ある与野高をつくってくれた」と感謝する。

現在は、東京都内の病院で療養中だが、一日三食とおやつを完食し、一人で食事やトイレを済ませることができる。立ったり座ったりも難なくこなす。

十三日は清水勇人さいたま市長の表敬を受け、自ら結んだネクタイが決まった礼装で迎えた。長寿の祝い状などを受け取ると、「大変名誉なことです」と顔をほころばせた。耳が遠いため、市長とは筆談で歓談。「蔵書は二千冊」「かん詩（漢詩）をよく読んだ」と軽快にペンを走らせた。かつては長編漢詩「長恨歌（ちょうごんか）」をすべて暗記していたと振り返り、その一節をよどみなくそらんじた。

表敬後は記者の取材も受け、「格別悪いところもないので、あと二年くらい長生きしたい」。柔らかな表情で話していた。（池田友次郎）

「長生き、自然とね」 県内最高齢女性 新藤ハナさん（111歳）

新藤さんは入間市高倉出身で、一九〇一（明治三十四）年生まれ。二十九歳で所沢市の洋服仕立て人、故福次郎さん＝享年（68）＝に嫁ぎ、三男一女を育てた。戦前から戦後にかけて福次郎さんとともに店にも立ち、当時は珍しかった足踏みミシンを器用に操ったという。次男の昌一さん（73）は「まだ物が少なかった時代に、余った着物の布で自分たちの洋服を作ってくれた」と振り返る。

孫は十人、ひ孫は十一人。六年前から入間市内の病院で療養しているが、大きな病気はなく、食事やトイレで不自由はない。毎朝起きると太陽に向かって手を合わせ、「一日、気持ち良く過ごさせてください」と願いをかけるという。

十四日は病院に親族が集まり、県内最高齢を祝った。長生きの秘訣（ひけつ）を聞かれ「別に長生きしようとかじゃなく、自然とね」と照れくさそうに答えた新藤さん。大好物というコンペイトーに話が及ぶと、頬を大きく上げてにんまりと笑った。（岡本太）

100歳と99歳 お隣同士 入間の2女性

入間市野田では、滝沢ヒロノさんが100歳で敬老の日を迎える。隣家の田中みとさん(99)も来年2月の誕生日で100歳に。80年近く、隣同士で仲良く暮らしてきた。田中さんは生まれも育ちも野田地区。そこに飯能市出身の滝沢さんが1936(昭和11)年の結婚を機に隣に引っ越してきた。以来、付き合いは家族ぐるみで続いている。「2人で草津旅行にも行ったし、一緒にゲートボールも楽しんだね」と滝沢さん。長寿の秘策は「くよくよしないこと」(滝沢さん)「体に余計なことをしない」(田中さん)。2人とも特産の狭山茶が大好き。今後の抱負も「元気でデイサービスに通うこと」と口をそろえる仲良しおばあちゃんだ。(上田融)

敬老の日 読書のすすめ 読書推進運動協議会

Tel 03-3260-3071 / Fax 03-5229-1560 info@dokusyo.or.jp

「敬老の日読書のすすめ」は、「心ゆたかに生涯読書」を目標に、中・高年の方々に読書を楽しんでいただくために進めている運動です。

毎年各都道府県の読進協より、「敬老の日に薦める本」を3点推薦してもらい、それをもとに読書推進運動協議会の事業委員会で24~26点の書目を選定、リーフレットを制作し、全国の公共図書館・書店などに配布しています。

著者名	書名	出版社名
百田尚樹	海賊とよばれた男(上・下)	講談社
黒田夏子	abさんご	文藝春秋
安部龍太郎	等伯(上・下)	日本経済新聞出版社
宮部みゆき	桜ほうさら	PHP研究所
冲方 丁	光圀伝	角川書店
渡辺淳一	老いかたレッスン	新潮社
室井 摩耶子	わがままだって、いいじゃない	小学館
三浦雄一郎	三浦豪太 冒険の遺伝子は天頂へ	祥伝社
遠藤周作	老いてこそ遊べ	河出書房新社
金原まさ子	あら、もう102歳	草思社
安野光雅	わが友の旅立ちの日に	山川出版社
吉沢久子	95歳。今日をたのしく。もっと前向きに	海竜社
田村セツコ	すてきなおばあさんのスタイルブック	WAVE出版
和田秀樹	定年後の勉強法	筑摩書房
沖藤典子	それでもわが家から逝きたい	岩波書店
萬田緑平	穏やかな死に医療はいらない	朝日新聞出版

徳間書店取材班	最高齢プロフェッショナルの条件	徳間書店
全国有料老人ホーム協会	シルバー川柳	ポプラ社
ポプラ社編集部	誕生日ローソク吹いて立ちくらみ	ポプラ社
安藤百福発明記念館	転んでもただでは起きるな!	中央公論新社
岡野雄一	ペコロスの母に会いに行く	西日本新聞社
元村有希子	気になる科学	毎日新聞社
姜 尚中	心	集英社
重松 清	また次の春へ	扶桑社
岸 恵子	わりなき恋	幻冬舎

レシピ AJI NOMOTO

9月の第3月曜日は敬老の日です!

「これからも元気に過ごしてね♪」という気持ちを込めて、お料理のプレゼントを試してみては? ひき肉や豆腐、煮魚のおかずなら、やわらかくて食べやすいのでおすすめ。旬の食材を使ったメニューを並べて、にぎやかな食卓を。

おすすめメニュー

帆立の炊き込みご飯 レシピ えびの天ぷらレシピ

やわらかめのおかず

さっぱり和風バーグ レシピ なすの中華風はさみ焼き レシピ 肉豆腐レシピ
だし巻き卵 レシピ

旬の魚介でおかず

鮭の南蛮漬け レシピ さばのおろし煮 レシピ いかとみょうがの炒めものレシ
ピ さんまのかば焼き レシピ

旬の味覚でもう一品

れんこんの梅あえ レシピ 長芋の春巻き レシピ 里いもの含め煮レシピ か
ぼちやのサラダ レシピ

ご飯もの

簡単お赤飯 レシピ 栗ご飯 レシピ さつまいもとじゃこの炊き込みご飯 レシ
ピ 手巻き寿司 レシピ

汁物

きのこ豆腐のお吸いもの レシピ 豆腐となめこの赤だし レシピ 岩のり
のお吸いもの レシピ シンプル茶わん蒸し レシピ

デザート

抹茶の豆乳プリン レシピ 水ようかん レシピ グレープフルーツのゼリー レシ
ピ コーヒーゼリー レシピ

敬老の日 カタログギフトとお花のセット 郵便局 JP

【敬老・選べるギフト】17セット

花コースとお花のセット 鳥コースとお花のセット 風コースとお花のセット
月コースとお花のセット 海コースとお花のセット 山コースとお花のセット
河コースとお花のセット とっておきの宿とお花のセット おもてなしの宿とお花
のセット 厳選の宿とお花のセット 美食のダイニングとお花のセット 人気のダイニ
ングとお花のセット あこがれのダイニングとお花のセット 四季を奏でる名湯とお花
のセット 風情をまとう名湯とお花のセット 癒しのホテルスパとお花のセット 贅沢
ホテルスパとお花のセット

「老人の日」「老人週間」

全国社会福祉協議会

全国老人クラブ連合会

「老人の日」

全国社会福祉協議会

9月15日は「老人の日」

9月15日から21日までの1週間は「老人週間です。」

【標語】 みんなで築こう活力ある長寿社会

我が国では、誰もが健康で安心して生きがいを持った生活を送ることのできる活力ある長寿社会を築くことが課題となっています。

このため、国においては、平成13年末に、高齢社会対策基本法に基づく「高齢社会対策大綱」を策定し、政府が取り組むべき課題を横断的に設定して総合的な推進に努めています。

認知症高齢者やひとり暮らし高齢者が増加する中、高齢者ができる限り住み慣れた地域で活動的で生きがいのある生活を送ることができるよう、「地域包括支援センター」が設置され、「地域包括ケア体制」の整備が行われています。

この地域包括ケアを実現するためには、保健・福祉・医療の専門職相互の連携、さらにはボランティア等の住民活動などインフォーマルな活動を含めた、地域の様々な資源を統合、ネットワークを構築し、高齢者を継続的かつ包括的にケアすることが重要です。また、平成17年から認知症になっても安心して暮らせるという「認知症を知り地域をつくる10ヵ年構想」を実現するため、各種活動が展開されているところです。

こうした情勢のもと、今後到来する超高齢社会の中で、高齢者自らが高齢期の在り方に

関心と理解を深める取り組みを進めていくことが必要であり、また、国民一人ひとりが家庭、地域社会、職場、学校などで高齢者とのかかわりをこれまで以上に深めていくことが重要です。

そこで、すべての高齢者が安心して暮らせるまちづくり、高齢者の社会参加・ボランティア活動の促進、高齢者の人権の尊重等、5つの目標を掲げ取り組むことを提唱いたします。

そこで、すべての高齢者が安心して暮らせるまちづくり、高齢者の社会参加・ボランティア活動の促進、高齢者の人権の尊重等、5つの目標を掲げ取り組むことを提唱いたします。

「老人の日」・「老人週間」とは

老人の日、老人週間は、①国民の間に老人の福祉への関心と理解を深める、②老人が自らの生活の向上に努める意欲を促す、という二つの目的のために設けられています。高齢社会のもとでは、私たち一人ひとりが、これまで以上に家庭、地域社会、職場、学校などいろいろな場面で世代間のかかわりを深め、社会全体のテーマとして、また私たちの身近な問題として高齢になっても安心して暮らせる社会づくりに取り組まなければなりません。

また、今後到来する超高齢社会に向けては、高齢者自らが高齢期のあり方について関心と理解を深めるよう取り組むことも必要です。

老人の日、老人週間には、こうしたことについて考え、取り組む一つのきっかけとして、各地でさまざまな行事やポスターの掲示などの広報活動が行われます。（地域によっては、老人の日、老人週間の前後にも催しがあります）

老人の日・老人週間キャンペーンが目指す五つの目標

- 1 すべての高齢者が安心して自立した生活ができる、保健・福祉のまちづくりを進め、ふれあいの輪を広げよう。
- 2 高齢者の知識、経験や能力をいかした、就労・社会参加・ボランティア活動を進めよう。
- 3 高齢者の介護予防、生きがい・健康づくりへの取り組みを進めよう。
- 4 高齢者の人権を尊重し、「認知症」と介護問題をみんなで考え、高齢者や介護者を支える取り組みを積極的に進めよう。
- 5 高齢社会における家族や地域社会等の役割を理解し、お互いに協力して活力ある長寿社会をつくろう。

主唱・協賛

主唱：内閣府 厚生労働省 全国社会福祉協議会 全国老人クラブ連合会

長寿社会開発センター 日本医師会 日本歯科医師会
日本薬剤師会 日本看護協会 日本社会福祉士会 日本介護福祉士会
協賛：NHK 日本新聞協会 日本民間放送連盟

「老人の日・老人週間」の経緯

昭和22年（1947年）に兵庫県多可郡野間谷村（現：多可町）で行われた敬老行事がきっかけとなり、昭和25年（1950年）、9月15日を「としよりの日」としようとする敬老・福祉の県民運動が開始されました。

昭和26年（1951年）、中央社会福祉協議会（現：全社協）が全国運動を提唱。9月15日から21日までの1週間を運動週間として、「老人を敬い慰め、励ますとともに、老人福祉に対する国民的理解を促進し、老人自身もまたその立場を自覚し、新しい社会建設に参加する」ことをうたって様々な活動が推進されました。

「としよりの日」は後に「老人の日」を経て昭和41年（1966年）に国民の祝日「敬老の日」へと発展しました。そして、平成13年（2001年）の老人福祉法の改正により、9月15日が「老人の日」、同月21日までの1週間が「老人週間」と定められました。

なお、「国民の祝日に関する法律」の改正により、平成15年（2003年）から「敬老の日」が9月の第3月曜日となりました。

【参考】 敬老の日

『「老人の日・老人週間」の経緯』のとおり、平成15年（2003年）から毎年9月の第3月曜日が国民の祝日（休日）の「敬老の日」となりました。「国民の祝日に関する法律」では、敬老の日を「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」としています。

創造と連帯の輪を広げて～心豊かな21世紀を

全国老人クラブ連合会（全老連）の活動

9月15日は「老人の日」

9月15日から21日は「老人の日・老人週間」

仲間と集い、高齢者の元気な姿を示しましょう！

【標語】

「みんなで築こう 安心と活力ある健康長寿社会」

我が国は世界でも有数の長寿国となって久しく、それは命を大切にする国民一人ひとりの努力の賜物でもあります。そして、誰もが健康で、安心して生きがいを持った生活を

送ることのできる活力ある長寿社会を築くことが大切になっています。

現在、国においては、高齢社会対策基本法に基づく「高齢社会対策大綱」を策定し、施策の総合的な推進に努めています。また、認知症高齢者施策をはじめ、介護を必要とする高齢者やひとり暮らしの高齢者等への施策を一層充実させ、できる限り住み慣れた地域で生活を送ることができるようにするために、介護サービスの基盤強化、認知症ケアの質の向上、地域住民による見守りの推進等支援策の強化をはじめ、「地域包括ケア体制」の整備が進められています。

加えて、東日本大震災は我が国に甚大な被害をもたらし、高齢者への災害時の支援のあり方についても大きな課題となったことから、各地域ごとに、その対応が進められています。

本格的な高齢社会を迎えた今日、これらの対策をより一層効果のあるものにするためには、高齢者自らが高齢期の在り方に関心と理解を深める取り組みを進めていくことが必要です。また、国民一人ひとりが、家庭、地域社会、職場、学校などで高齢者とのかわりをこれまで以上に深めていくことも重要です。

このような状況をふまえ、老人の日・老人週間を契機に、すべての高齢者が安心して暮らせるまちづくり、高齢者の社会参加・ボランティア活動の促進、高齢者の人権の尊重等、6つの目標を掲げ取り組むことを提唱いたします。

キャンペーンが目指す6つの目標

- (1) すべての高齢者が安心して自立した生活ができる、保健・福祉のまちづくりを進め、ふれあいの輪を広げよう。
- (2) 高齢者の知識、経験や能力をいかした、就労・社会参加・ボランティア活動を進めよう。
- (3) 高齢者の介護予防、生きがい・健康づくりへの取り組みを進めよう。
- (4) 高齢者の人権を尊重し、認知症高齢者への支援のあり方や介護問題等をみんなで考え、高齢者や介護者を支える取り組みを積極的に進めよう。
- (5) 高齢社会における家族や地域社会等の役割を理解し、お互いに協力して安心と活力ある長寿社会をつくろう。
- (6) 減災や防災への取り組みに関心を持ち、日頃から地域でのつながりを築こう。

キャンペーン期間

平成25年9月15日の「老人の日」から21日までの「老人週間」の7日間
(この前後の期間にも運動を盛りあげることが提唱いたします。)

主唱

内閣府 消防庁 厚生労働省 全国社会福祉協議会 全国老人クラブ連合会

長寿社会開発センター 日本医師会 日本歯科医師会 日本薬剤師会
日本看護協会 日本社会福祉士会 日本介護福祉士会

協賛

NHK 日本新聞協会 日本民間放送連盟

「老人の日・老人週間」の経緯

昭和22年(1947年)に兵庫県多可郡野間谷村(現:多可町)で行われた敬老行事がきっかけとなり、昭和25年(1950年)、9月15日を「としよりの日」としようとする敬老・福祉の県民運動が開始されました。

昭和26年(1951年)、中央社会福祉協議会(現:全社協)が全国運動を提唱。9月15日から21日までの1週間を運動週間として、「老人を敬い慰め、励ますとともに、老人福祉に対する国民的理解を促進し、老人自身もまたその立場を自覚し、新しい社会建設に参加する」ことをうたって様々な活動が推進されました。

「としよりの日」は後に「老人の日」を経て昭和41年(1966年)に国民の祝日「敬老の日」へと発展しました。そして、平成13年(2001年)の老人福祉法の改正により、9月15日が「老人の日」、同月21日までの1週間が「老人週間」と定められました。

なお、「国民の祝日に関する法律」の改正により、平成15年(2003年)から「敬老の日」が9月の第3月曜日となりました。

.....

「老人の日・老人週間」(老人福祉法第1章第5条)には、

- ①国民の間に老人の福祉への関心と理解を深める、
 - ②老人が自らの生活の向上に努める意欲を促す、
- という二つの目的があります。

誰もが健康で安心して生きがいを持った生活を送ることができる活力ある長寿社会を築くために、内閣府、厚生労働省をはじめ、全国老人クラブ連合会を含む福祉・医療関係団体は、毎年「老人の日・老人週間」の全国的なキャンペーンを展開しています。

仲間と集い、高齢者の元気な姿を示そう！

老人クラブは、「老人の日・老人週間」の取り組みとして、“仲間と集い、高齢者の元気な姿を示そう！”をスローガンに、「健康」「友愛」「奉仕」の全国三大運動を積極的に展開し、高齢者の意欲と姿勢を地域に示そうと取り組んでいます。

「としよりの日」運動から「敬老の日」そして「老人の日」へ
9月15日は、老人福祉の記念日(原点)です。

昭和 22 年

兵庫県野間谷村（現：多可町）で、9月15日に終戦後廃墟のなかで自信を失った高齢者を励まそうと敬老行事が開催される。

昭和 25 年

兵庫県は9月15日を「としよりの日」に定め、県民運動を展開

昭和 26 年

中央社会福祉審議会（現：全国社会福祉協議会）は、「第1回「としよりの日」運動」を実施。（9月15日を「としよりの日」、同21日までの1週間を運動習慣として推進。

昭和 27 年

第2回「としよりの日」運動の行事实施要綱において、「老人クラブづくり」が掲げられる。（運動名称：「としよりの日・としよりの福祉週間」）

昭和 38 年

老人福祉法公布。「老人の日」が定められる。（運動名称：昭和39年から「老人の日・老人週間」に改称）

昭和 41 年

「老人の日」が「敬老の日」として国民の祝日となる。（運動名称：「敬老の日・老人福祉週間」に改称。平成5年に「敬老の日・老人保健福祉週間」に改称）

平成 13 年

老人福祉法改正。9月15日が「老人の日」、同21日までの1週間が「老人週間」に制定される。（14年志向）*老人クラブに置いて、「老人の日・老人週間」の制定を記念して、推進要綱を策定して全国運動を開始。

平成 15 年

国民祝日法の改正により、「敬老の日」が9月の第3月曜日となる。

地域社会に感謝して、9月20日は全国一斉「社会奉仕の日」

老人クラブでは、昭和31年より老人週間を契機に地域社会に対する感謝と高齢者の活力を示す全国一斉「社会奉仕の日」に取り組んでいます。

この運動は、昭和59年に神奈川県、横浜市、川崎市老連が「敬老の日」に感謝する取り組みとして行った一斉奉仕活動が各地に波及し、全国運動につながったものです。現在は、“きれいな地球を子どもたちへ”をスローガンに、「花のあるまち、ゴミのないまち」を目指した美化活動、環境活動に取り組んでいます。

公益財団法人 全国老人クラブ連合会

東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5階 TEL : 03-3581-5658